

第10回「道の駅」第3ステージ推進委員会 議事概要

令和6年6月7日

○議事（1）本日の論点

（2）モデルプロジェクトの深化・展開

（3）「道の駅」に求められる多様なニーズ・課題への対応

（評価室より資料1、2、3について説明。）

【根岸委員】

- ・地域の価値を高めるということで、「道の駅」自身が地域商社の機能を果たしている。
- ・国交省が第3ステージに向けた積極的な取組を奨励し、他省庁と連携して応援するといった取組は市町村から期待が大きいのではないかな。
- ・地域生活圏の交通の問題を考える上で、拠点としての「道の駅」の役割というのは大きいのではないかな。

【篠原委員】

- ・2次交通がほとんどない地域はレンタカーの需要を促進していかざるを得ない。
- ・観光庁の政策と繋がるため、連携して議論をいただきたい。

【楓委員】

- ・まちぐるみや地域全体の連携、地域外の連携を推進する主体はどこなのか。
- ・南房総地域では、株式会社ちば南房総という会社が設置され、市長が取締役社長で「とみうら」の駅長が代表取締役副社長を務めていて、この会社が南房総市内の8つの「道の駅」を統括している。
- ・まちぐるみを進めていく上で必要な体制を明示することが重要である。
- ・まちぐるみを推進していく地域、「道の駅」への支援を明確にしなければならない。
- ・精神的支援だけではなくて、実質的な支援も提示する必要がある。
- ・海外に日本の「道の駅」システムそのものを知らしめることにより、「道の駅」に興味を持った方を取り込むことができる。

【国崎委員】

- ・「道の駅」で少子化対策としてどのような貢献ができるのかという視点も持つべきである。
- ・子どもたちにとってスポーツ施設やのびのび遊ばせられる広場は欠かせない。

- ・「道の駅」における子どものおむつ替えとか授乳スペースもまだ十分でないため、機能的なところも含めて、それら施設の充実・拡大をしていくということが必要である。

- ・様々な多様化する地域ニーズに対応できるようなイベントスペースも必要ではないか。

【徳山委員】

- ・「道の駅」は道路局が商標登録をしているブランドホルダーなので、このブランドは大事にした方がいい。

- ・「もてぎ」は顧客視点でいうと、携帯電話の移動データを使って、来場者の特性を分析したり、役所の出先機関を「道の駅」にも置いたりしている。

- ・リニューアルの中でコンセプトを発信していくために、コンセプトルームを「道の駅」の真ん中に置くという設計をしており、対外的な人に対しては「道の駅」がビジターセンターとなる。

- ・とりまとめの中では、具体的にどのような施策を打ち出して第3ステージを応援していくのかを書かないといけない。

- ・全国道の駅連絡会の強化も必要である。

【山田委員】

- ・「道の駅」の中の配置ではなくて、「道の駅」自体が適正な配置に置かれているかどうかを検証が必要なのではないか。

- ・まちぐるみ、地域ぐるみと言いつつも、運営組織について書かれていない。

- ・地域の自治組織、地域運営組織が「道の駅」の運営にどう関わっているか、その運営組織が地域住民とどう関わっているのかを考えるべきである。

- ・経営自体に困っている「道の駅」の方が多いのではないか。

- ・課題を抱えていて、継続していくことに難しさを感じている「道の駅」をどう支えていくのかという議論も必要ではないか。

【豊田委員】

- ・オーバーツーリズムへどう対応していくかということが重要である。

- ・地域の人が周遊できる、海外から来た人や観光客も周遊できる、そういう仕組みをつくっていくことが重要である。

- ・地域に住む人たちの意見が吸い取られているように仕組みを作り、20年後、50年後にどのように地域が育っていくのか、育てていきたいのかを考える際には、次世代をどのように育てていくのかを考え、その仕組みを作っていく必要があるのではないか。

【原委員】

- ・第3ステージの実現には「官民ハイブリッド」の体制が重要というのはそのとおりである。
- ・推進体制を誰が推進するのかということが重要である。
- ・第3ステージの実現に向けて、「道の駅」のリニューアルも重要である。
- ・リニューアルに合わせて24時間、開いているトイレをうまく使った情報提供とか地域振興など単体の機能というより、上手く組み合わせた形で施設を使用できるとより効果的で第3ステージらしい「道の駅」になるのではないかな。

【石田委員長】

- ・取りまとめる際は、誰に対してメッセージを発するのか。
- ・設置者であれば首長であろうが、実動部隊としては「道の駅」の運営スタッフということか。
- ・防災の「道の駅」は広域防災計画であるため、県が重要になってくる。
- ・誰に向かって発信しようとしていくのかということを意識するべきである。

○議事（４）『「道の駅」第3ステージ中間評価と今後の方向性（概要）』

（評価室より資料4について説明。）

【根岸委員】

- ・地域マネジメントはそれぞれの団体が同じ方向を向くために、地域ビジョンや地域デザインが前提としてみんなに共有されなければいけない。
- ・宮崎県は南海トラフに危機感を感じており、「防災道の駅」を何年までに何箇所作るといったメッセージ性があるとありがたい。
- ・物流2024年問題について、交通事故を減らすという観点から休憩施設をしっかりと担保していくことが重要である。

【徳山委員】

- ・今回の肝は第3ステージの定義と制度的な下支えである。
- ・定義は一体で戦略的だけでは今までと何が違うのか分からない。
- ・イメージ図も今後第3ステージを表す図として使われるのかというといまひとつではないかな。

- ・制度的な下支えは、適切な支援を可能にする内容は何なのかを言わなければいけない。
- ・取組の性格を表しているのが第3ステージであり、機能強化をすることが第3ステージではない。

【原委員】

まちと「道の駅」が一体で発展という部分について、2つの図が一緒になるように整理できないか。

【石田委員長】

- ・地域と一体化して、まちづくりにどれだけ貢献するかというのが第3ステージのあり方だということに関して、委員の賛同を得ていることは非常に良い成果である。
- ・これまで2025年で区切られていたが、延びて中間評価になったということも非常に大きな達成である。
- ・どういうメッセージを発すれば本当に充実できる成果が達成できるかということについては精力的に議論して、しっかりとりまとめていただきたい。
- ・第1ステージや第2ステージは続いており、第3ステージも並行しているため、第3ステージじゃないと駄目だとは言っていない。

—— 了 ——